



# 浪曲映画 情念の美学

風景に節フシが流れると、情景になる。

2019  
6.22土曜日 → 26水曜日

ユーロライブ / ユーロスペース

# 浪曲の映画

## 情念の美学

**22日(土)「新佐渡情話」上映後**

花の盛りの向島、からかさ桜と呼ばれた見事な枝ぶりの桜。ここで首をつって死のうとした一人の男。いま死のうとしたそのときに、女連れの武士が木の下にやってきて、やはり心中をしようとした。武士が振り上げた大刀にびくりした男が木から落ち、それに驚いた男女は逃げた。逃げた二人が、残した金を元手に、男は商売で成功をする。恩返しに、逃げた男女を探すが……。

浪曲界の大御所、待ってました！

口演：澤幸子 曲師：佐藤美英

**からかさ桜**

**24日(月)「續清水港」上映後**

親分次郎長の代理で、蔵敷は金比羅山へ刀を納めに行くの帰りの道。森の石松は大阪の八軒家から三十石船に乗る。伏見へ渡す渡し船。乗合衆の話の聞いていると、やくざ者に詳しい男が、次郎長を海道一の親分だといふ。嬉しくなった石松、男を呼ぶ。次郎長ってのはそんなに偉いのか？ 偉い！ だが次郎長だけが偉いんじゃない。いい子分がいるぞ、次郎長には。そして男は子分の名前を挙げてくるが……なかなか自分の名前が出てこない。

口演：五川奈々福 曲師：五川みね子

**清水次郎長伝 石松三十石船**

**22日(土)「赤穂義士」上映後**

某藩の槍術指南役であったが、酒の上の争いで朋友を殺してしまい、今は浪人となった、両国で道場を開いている俵屋玄蕃。ある晩、屋台蕎麦屋がやってくる。蕎麦屋とは世を忍ぶ飯の姿、まことは赤穂義士・杉野十平次。ひそかに吉良邸を探っている。玄蕃はそれを一目で見抜く。杉野は玄蕃を避けるようになるが、両国橋のたもとで再会する。

口演：五川奈々福 曲師：佐藤美英 脚色：小菅夫

**赤穂義士 銘々伝**

**25日(火)「血斗水滸伝 怒濤の対決」上映後**

飯岡助五郎と笹川繁蔵、長年の争い。笹川方の用心棒・平手造酒が倒れたという知らせを聞いた飯岡方は、笹川へ夜討ちをかけようとする。ところがこの情報、飯岡方から笹川方へ漏れた。飯岡の身内でありながら、笹川一家清濁の佐吉に恩義のある、荒生の留次郎が注進をしたのだ。だが、笹川方で集めた人数は攻めにくる飯岡方の三分の一に満たない。酒毒で臥せていた平手造酒、繁蔵からの手紙を読み、大利根河原へと駆けていく。

口演：五川奈々福 曲師：沢村豊子 作：正岡啓

**天保水滸伝 平手造酒の駆けつけ**

**23日(日)「呼子星」上映後**

高田馬場の仇討で名を挙げた中山安兵衛のところを立派な武家の母娘が訪れる。聞けば築地鉄砲洲の堀部金丸の奥方と娘。高田馬場で安兵衛を気に入った主人が「婿になってもらえ、ダメだったら家から追い出す」と言うので婿養子になってくれと頼みに来たのだった。安兵衛が断ると、母親は自害しようとする。安兵衛はこれを押しとどめ、飲んで飲んで飲み尽くして愛想尽かさせ離縁させようとの腹つもりで申し出を受ける。

口演：天中野雲月 曲師：沢村豊子

**赤穂義士 銘々伝 安兵衛婿入り**

**26日(水)「噂の玉川奈々福 キネマ更紗」上映後**

場所がわからない。ただ港に近い、どこかの地べたに腰を下ろした二人の男。男1「もうこの仕事5年？」男2「いえ、もう10年です」男1「え、もう10年か」男2「はい、丸10年です」男1「はやいなあ、10年か」男2「早いぞ、さあ、丸10年です」男1「…10年か」男2「…丸10年です」男1「…10年と丸10年って違うの？」このやりとりから全てが始まった非ドラマチック浪曲の極北。

口演：五川みね子 作：五川太福

**地べたの二人**

**23日(日)「銭形平次捕物控」上映後**

紫匂う大江戸の、しかも神田に過ぎたるものは、神田祭と銭形平次——しんしんと雪降り積もる冬の夜。浅草今戸の高利貸・越後屋佐吉の雨戸を、とんとんと叩くものがある。「すいませんが、ここを開けてください……」ぞつとするような女の声に従って戸を開いたとたん、佐吉の女房が首筋をざつくり斬られて殺される。知らせをきいた銭形平次、八五郎とともに、事件解明に乗り出すが、そこには世にも悲しい物語があったのだった。

口演：五川奈々福 曲師：沢村豊子 原作：野村胡堂 作：国友忠

**銭形平次捕物控 雪の精**

**26日(水)「噂の玉川奈々福 キネマ更紗」上映後**

当代随一の金魚師、伝助は稼いだ金をすべて新しい金魚の開発につきこむため、借金だらけ。そんな伝助は、かつてない色をした美しい金魚・マボロシをつくりだす。マボロシは、いまだかつてない色ゆえに、他の金魚たちからいじめられていた。しかし伝助の言葉から、マボロシは生きる希望を見つける。ところが、マボロシは借金取りに持ち出され、オークションにかけられ、海外に売り飛ばされてしまう。

口演：五川奈々福 曲師：沢村豊子 作：五川奈々福

**金魚夢幻**

**映画1 新佐渡情話**

1936年/日活/78分/D 監督：清瀬英次郎/脚本：三田初雄/出演：黒川弥太郎、花井蘭子、酒井米子/口演：寿々木米若

元祖浪曲映画。太宰治が空想にも号泣と短編に書き残す\*

22日(土) 12:30  
24日(月) 12:40  
26日(水) 16:50

**映画2 赤穂義士**

1954年/大映/98分/D 監督：荒井良平/原作：萩原四朗/出演：黒川弥太郎、坂東好太郎/口演：寿々木米若、梅中軒蔵、富士月子、玉川勝太郎

浪曲四天王の名調子に乗せて観る、赤穂義士銘々伝の決定版

22日(土) 16:10  
26日(水) 11:20

**映画3 母千草**

1954年/大映/92分/D 監督：鈴木重吉/脚本：松田昌一/出演：三益愛子、川上康子、信欣三、伊丹秀子

浪曲師・伊丹秀子が七色の声で七倍泣かせる母子の浪曲映画

22日(土) 19:00

**映画4 頭山**

2002年/ヤマラムアニメーション/10分/D 監督：山村浩二/口演：国本武春

国本武春の口演によるアニメーション。米アカデミー賞ノミネート

22日(土) 鼎談冒頭

**映画5 呼子星**

1952年/大映/84分/D 監督：吉村廉/脚本：笠原良三/出演：三益愛子、松島トモ子、三橋達也、小林桂樹、伊丹秀子、広沢虎造、寿々木米若

三益愛子が曲師の女性を演じて大ヒット、涙々の母子もの

23日(日) 13:00  
26日(水) 15:20

**映画6 銭形平次捕物控 地獄の門**

1952年/大映/95分/D 監督：森一生/脚本：伊藤大輔/出演：長谷川一夫、花菱アチャコ、三浦光子、高杉早苗、河津清三郎、日高澄子、長谷川裕見子、澤村国太郎

江戸八百八町に潜む悪を暴く、謎解き捕物シリーズの最高傑作

23日(日) 16:15  
26日(水) 16:50

**映画7 どぶ鼠作戦**

1962年/東宝/102分/F 監督：脚本：岡本喜八/出演：加山雄三、佐藤允、夏木陽介、中谷一郎、田中邦男

浪曲師・国友忠をモデルにした「独立愚連隊」シリーズ第3作

23日(日) 19:00

**映画8 次郎長三国志第四部 勢揃い清水港**

1953年/東宝/80分/F 監督：マキノ雅弘/主演：小堀明男、河津清三郎、田崎潤、森健二、田中春夫、石井一雄、轟夕起子、小泉博、加東大介、広沢虎造、久慈あさみ/口演：広沢虎造

子分が揃った清水次郎長一家の大暴れを描く痛快群像劇

24日(月) 14:20

**映画9 世紀は笑ふ**

1940年/日活/96分/F(国立映画アーカイブ) 監督：マキノ正博/脚本：小堀明雄/出演：杉狂児、広沢虎造、轟夕起子、芝田新、上代勇吉、吉谷久雄、潮万太郎/フィルム提供：国立映画アーカイブ

広沢虎造が主演する、笑い涙の浪曲師誕生ストーリー

24日(月) 17:00

**映画10 續清水港**

1940年/日活/96分/F(国立映画アーカイブ) 監督：マキノ正博/脚本：小堀明雄/出演：片岡千恵蔵、沢村国太郎、沢村アキラ、堀川三郎、香川良介、志村喬、日守新一、上田吉二郎、轟夕起子、広沢虎造/口演：広沢虎造/フィルム提供：国立映画アーカイブ

夢の中で江戸時代にタイムスリップして石松になった男は…

24日(月) 19:00

**映画11 座頭市物語**

1962年/大映/96分/F 監督：三隅研次/脚本：犬塚稔/出演：勝新太郎、天地茂、万里晶代

子母澤寛の随筆集「ふところ手帖」に収録されている短篇をもとに、浪曲「天保水滸伝」の題材として知られる侠客の抗争にからめたオリジナルストーリー。大利根河原の決闘を控えた飯岡助五郎一家にわらじを脱いだ座頭市は、対立する笹川繁蔵の用心棒・平手造酒(みき)と出会い、お互いに、相手の腹前と世捨て人的な人間性に魅かれてきた。平手造酒は多くの役者が演じてきたが、この映画の天地茂が白眉である。

25日(火) 12:20

**映画12 瞼の母**

1962年/東映/83分/F 監督：脚色：加藤泰/出演：中村錦之助、木暮実千代、松方弘樹、大川恵子、中原ひとみ、夏川静江

浪曲の定番演目でもある「瞼の母」は、天保水滸伝の余話として長谷川伸が書いた戯曲である。親分笹川繁蔵の仇・飯岡助五郎に手傷を負わせた助五郎一家に追われている弟分の半次郎を逃がしたことで自ら追われる身になった番場の忠太郎は、幼い頃に生き別れた母を捜して江戸へ来る。捜し当てた母・おはまは料亭の女将で、近く祝言をあげる娘・お登世がいた。加藤泰の長廻し・ローアングルの演出が光る傑作。

25日(火) 14:20

**映画13 番場の忠太郎**

1955年/新東宝/86分/F(国立映画アーカイブ) 監督：中川信夫/脚本：三村伸太郎/出演：若山富三郎、山田五十鈴、轟夕起子、桂木洋子、三井弘次/フィルム提供：国立映画アーカイブ

「瞼の母」を、原作にはない話を盛り込んで描いた異色の一篇

25日(火) 17:00

**映画14 血斗水滸伝 怒濤の対決**

1959年/東映/114分/F 監督：佐々木康/脚本：高岩肇/出演：市川右太衛門、片岡千恵蔵、中村錦之助、大川橋蔵、東千代之介、里見浩太朗、若山富三郎、美空ひばり

娯楽の王様としての映画のパワーがあふれるオールスター映画

25日(火) 18:50

**映画15 噂の玉川奈々福 キネマ更紗**

1959年/東映/114分/F 監督：佐々木康/脚本：高岩肇/出演：市川右太衛門、片岡千恵蔵、中村錦之助、大川橋蔵、東千代之介、里見浩太朗、若山富三郎、美空ひばり

奈々福と豊子、怒濤の3年の記録

26日(水) 18:50

# 映画ミーツ浪曲——浪曲映画——の再発見

1929年、映画は無声からトーキーになったことで、演出の大転換を迫られる。多くの時代劇は人形浄瑠璃や歌舞伎のように、義太夫が節と語りて物語を回す日本の伝統的な演劇形式を踏襲、義太夫に代わる役割を浪曲や琵琶語りに託した映画—浪曲トーキー、琵琶トーキーなるものが登場する。

1928年のラジオの全国放送化、SPレコードの本格普及で大ブレイクした寿々木米若の浪曲「佐渡情話」に目を付けた日活が浪曲「佐渡情話」（1934年）を映画化して大成功を収めると、それを契機に各社はあたかも今日の映画界がベストセラー小説やマンガを映画化するように、浪曲口演付きや浪曲・講談演目を脚本とした映画を次々と製作。マキノ雅弘の「次郎長三国志」を頂点として、山中貞雄、成瀬巳喜男、中川信夫、森一生、斎藤寅次郎、三隅研次、加藤泰らも含め、その傾向はTVの登場で急速に人気が衰える1950年代まで続いた。

浪曲は大衆芸能の王者として終戦後まで君臨するが、浪曲の物語に通底する義理人情、通俗的で情緒的な価値観は、近代的自我を目指した知識人、夏目漱石、芥川龍之介、永井荷風らに忌み嫌われ、文芸の世界では「浪花節」という言葉が否定的なレッテルとして最近まで頻繁に使われていた。

しかし、従軍画家を務めたことで戦争協力を問い詰められ、フランスから終生帰国することのなかった藤田嗣治がテープレコーダーに声で残した遺言のなかで、しばしば浪曲の節に乗せて語るほどに、浪曲は日本人に浸み込んでいた。

浪曲師・国友忠が「二葉百合子、三波春夫、村田英雄」という人たちは、浪曲の自在性を生かし、それぞれ見事に独自の節調を作り上げて成功した、現代の浪曲家だ」と書いているように、浪曲は変容しつつも日本人のDNAを受け継いできた。この特集企画は、いわば私たちのDNAを探り当てる旅でもある。

**注記**

🎵 浪曲 🎬 映画 公演は「映画+浪曲」か「映画」の2種類です(各回入替)。浪曲だけの観覧はできません。また、全席指定制ですので予約はお早め!

🟩 ユーロライブ  
🟦 ユーロスペース

**4月18日(木) 販売開始(各回全席指定)**  
ユーロスペース公式サイト、劇場窓口にて販売

**映画+浪曲** 一般2,000円/学生・会員1,700円/高校生1,000円

**映画のみ** 一般1,400円/学生・会員1,200円/高校生800円

●学生・会員料金は、要証明書提示●浪曲だけの観覧はできません●特別興行につき、シニア料金はありません

◎オンライン・チケット <http://www.eurospace.co.jp/>  
●各種クレジットカードでのみご購入いただけます●ご鑑賞前に劇場ロビーにある専用発売機でチケットをお受け取りください。発売機が混雑する場合があります。早めのご来場をお勧めします。  
◎劇場窓口は4月18日(木)から販売(現金のみ)

**6.22** 土曜日

11:00

12:00

13:00 **12:30** 開演  
🎬 映画 **新佐渡情話** 監督=清瀬英次郎 回  
🎵 浪曲 **からかさ桜**  
浪曲=瀧 孝子 曲師=佐藤貞美江

14:00 **鼎談「浪曲映画」** ※12:30または16:10いずれかの入場券が必要です  
周防正行×玉川奈々福×山根貞男  
※鼎談の冒頭で映画🎬「頭山」上映

15:00

16:00

17:00 **16:10** 開演  
🎬 映画 **赤穂義士** 監督=荒井良平 回  
🎵 浪曲 **赤穂義士銘々伝—漆屋玄蕃**  
浪曲=玉川奈々福 曲師=佐藤貞美江

18:00

19:00

20:00 **19:00** 開演  
🎬 映画 **母千草** 監督=鈴木重吉 回

21:00

**Aプログラム**

**浪曲映画の誕生と隆盛**

明治時代に誕生した浪曲は、SPレコードやラジオ放送によって、昭和に入る頃には大衆芸能の王者と言ってよい人気を博していた。その人気に目を付けたのが、1930年代に「声」を持つようになったトーキー映画である。要所要所に浪曲が流れ、その語りを背景に物語が描かれる浪曲映画は、いわば「絵のついた浪曲」として、大衆を映画館へと呼び寄せた。そのストーリーは、義理と人情や一途な思いを軸とした「浪花節」であり、「浪曲」と「映画」は、同じ大衆娯楽として強い親和性を有していた(映画の中で口演する浪曲師の名前は、時にタイトルにも使われ、主演俳優と並び称せられもした)。昭和三十年代まで、こうした映画に涙を流すことで日々の労働や苦難を癒す観客が日本中にいたのである。映画を芸術的な側面でもとらえる映画史の中では見落とされている浪曲映画にスポットを当てることで見えてくるのは、生活感あふれる大衆の姿でもある。

**6.23** 日曜日

13:00 開演  
🎬 映画 **呼子星** 監督=吉村廉 回  
🎵 浪曲 **赤穂義士銘々伝—安兵衛婿入り**  
浪曲=天中軒露月 曲師=沢村豊子

**対談「国友忠と曲師の仕事」**  
※13:00または16:15いずれかの入場券が必要です  
沢村豊子×玉川奈々福 聞き手:田井肇

**16:15** 開演  
🎬 映画 **鏡形平次捕物控—地獄の門**  
監督=森一生 回  
🎵 浪曲 **鏡形平次捕物控—霧の精**  
浪曲=玉川奈々福 曲師=沢村豊子

**19:00** 開演  
🎬 映画 **どぶ鼠作戦**  
監督=岡本喜八 回

**Bプログラム**

**伝説の浪曲師・国友忠(生誕100年)と曲師・沢村豊子**

国友忠は15歳で浪界に入り、20歳で真打となるが、翌年に招集されて中国戦線に赴く。大戦中は、マスターした中国語を操り中国人に化けて諜報活動する特務班を担う(その国友をモデルに岡本喜八が「どぶ鼠作戦」を撮る)。戦後、浪界に復帰し、野村胡堂の「鏡形平次捕物控」の浪曲化など、新作浪曲を手掛ける。1952年より国友忠を名乗り、連続ラジオ浪曲「鏡形平次」を5年間にわたって務めるなど、精力的に活躍。1964年、激務がたたって体調を崩し、浪界を離れて静養生活に入る。1982年、洞涸の一途をたどっていた浪界に復帰。折しも中国残留孤児の存在が明らかになり、それに衝撃を受けた国友は、彼らの救済に私財を投げ打って尽力。その活動は11年に及び、ついに中国残留邦人の帰国・永住を勝ち取ることになる。晩年は国本武春や玉川奈々福などの後進の育成に務め、2005年、86歳で他界した。(沢村豊子については、浪曲師・曲師紹介欄を参照)

**6.24** 月曜日

**12:40** 開演  
🎬 映画 **新佐渡情話** 監督=清瀬英次郎 回

**14:20** 開演  
🎬 映画 **次郎長三国志第四部 勢揃い清水港**  
監督=マキノ雅弘 回

**対談「マキノと広沢虎造」**  
※14:20または17:00いずれかの入場券が必要です  
中島貞夫×山根貞男

**17:00** 開演  
🎬 映画 **世紀は笑ふ** 監督=マキノ雅弘 回

**19:00** 開演  
🎬 映画 **續清水港** 監督=マキノ雅弘 回  
🎵 浪曲 **清水次郎長伝—石松三十三石船**  
浪曲=玉川太福 曲師=玉川みね子

**Cプログラム**

**マキノ正博(雅弘)と広沢虎造**

浪曲界のスーパースターと言えば広沢虎造(正確には二代目広沢虎造)だ(今年は広沢虎造生誕120年にあたる)。♪旅行行けば、駿河の道に、茶の香り〜で始まる「清水次郎長伝」は、昭和の初期から三十年代にかけて日本中で「知らない者はない」人気演目で、全国の銭湯では壁の富士山をバックにだれもが「虎造節」を真似てダミ声あげていた。一方、マキノ正博(のちに雅弘)は日本映画の申し子と言ってよい娯楽映画の名手で、どちらも大衆が求める笑いと泣きのツボをおさえた職人であった。その二人のコラボレーションから生まれた傑作は数多いが、その中から選りすぐった3本を、今回はお届けする。マキノの映画と虎造の浪曲の登場人物の行動原理は「馬鹿を承知で」であり、その代表格と言えるのが♪馬鹿は死ななきやなおらねえ〜遠州森の石松である。浪曲「石松と三十石船道中」を若手浪曲師のホープ・玉川太福が口演する。

**6.25** 火曜日

**12:20** 開演  
🎬 映画 **座頭市物語** 監督=三隅研次 回

**14:20** 開演  
🎬 映画 **臉の母** 監督=加藤泰 回

**対談「天保水滸伝と演目」**  
※14:20または17:00いずれかの入場券が必要です  
玉川太福×坂本頼光

**17:00** 開演  
🎬 映画 **番場の忠太郎** 監督=中川信夫 回

**18:50** 開演  
🎬 映画 **血斗水滸伝 怒濤の対決**  
監督=佐々木康 回  
🎵 浪曲 **天保水滸伝—平手造酒の駆けつけ**  
浪曲=玉川奈々福 曲師=沢村豊子

**Dプログラム**

**浪曲演目録—「天保水滸伝」**

江戸時代末期の天保年間、利根川下流の下総(千葉県)を舞台に、対立する侠客、笹川繁蔵と飯岡助五郎の争いを軸に、それにまつわる出来事を描いた「天保水滸伝」は、浪曲師・玉川勝太郎(正確には二代目玉川勝太郎)が得意ネタとした、「次郎長伝」と並ぶ侠客伝の名作である。♪利根の川風袂(たもと)に入れて〜と始まる有名演目で、あの田中角栄も十八番としてうなっていたという。史実がベースとなっているが、浪曲では飯岡助五郎が悪玉、笹川繁蔵が善玉で、巨大な旧勢力と暴れん坊の新興勢力の対決構図として描かれる。見せ場の多い巨大な群像劇として映画化されることが多く、いわばスピノフと言ってよい「座頭市物語」「臉の母」「関の彌太っぺ」などを含め、関連する映画は60数本に及ぶ。中でも人気のあるキャラクターが労働(結核)の刺客・平手造酒(みき)で、今回、浪曲は、その「平手造酒の最期」を玉川門下・玉川奈々福でお届けする。

**6.26** 水曜日

**11:20** 開演  
🎬 映画 **赤穂義士** 監督=荒井良平 回

**13:20** 開演  
🎬 映画 **鏡形平次捕物控—地獄の門**  
監督=森一生 回

**15:20** 開演  
🎬 映画 **呼子星** 監督=吉村廉 回

**17:10** 開演  
🎬 映画 **新佐渡情話** 監督=清瀬英次郎 回

**18:50** 開演  
🎬 映画 **噂の玉川奈々福 キネマ更紗**  
監督=田島空/ドキュメンタリー 回  
🎵 浪曲 **玉川太福「抱べたの工人」**  
🎵 浪曲 **玉川奈々福「金魚夢灯」**  
曲師=玉川みね子/沢村豊子

**Eプログラム**

**浪曲の現在**

浪曲師は映画で言えば、製作・監督・脚本・主演を一人でこなさなければならない。彼らは古典芸能の守護神のように考えられているが、実は浪曲は落語や講談よりも新しく、演目も講談、落語、歌舞伎そして大衆小説を自由に浪曲化する——その物語に観客が真似をしたくなる節(ふし)と嘆阿(登場人物の台詞)を、それぞれの浪曲師が創意工夫することで、大衆の人気を博し続けてきた。今では映画を浪曲化したり、浪曲演目がマンガ化されることもある。「浪曲の場合、古典は、どんなに上手に読んでも、物真似としてしか通用しない。浪曲家は、飽く迄、時代毎に、ファンに受ける独自の節調(もの)を作り出していかない限り、義太夫と同じ運命を辿る」(国友忠)。今、浪曲の人気復活を牽引する玉川奈々福、玉川太福姉弟に、それぞれの代表的な新作浪曲で、浪曲の可能性を感じていただきたい。

「鼎談」ならびに「対談」を観覧いただくには、前後いずれかの入場券が必要です。整理の都合上直前のプログラムのお客様を優先しますので、直後のプログラムのお客様は空いている席にお座りください。

※F=フィルム/D=デジタル ※浪曲口演は約30分です

# 澤孝子

さわ・たかこ

千葉県銚子市出身。昭和29年、二代目沢沼菊春に入門して菊奴を名乗る。昭和36年、澤孝子と改名。昭和48年NHK浪曲コンクール第3回最優秀賞、昭和57年芸術祭優秀賞受賞。(一社)日本浪曲協会会長を務め、現在相談役。師匠・菊春から受け継いだ作品に「俵屋豆腐・二竹の水仙」「猫餅の由来」からかさ燦などがあるほか、「春日局」「女人平家」滝の白糸「お富と三郎」などの新作浪曲も手掛ける。

©森幸一



# 天中軒雲月

てんちゅうけんうんげつ



©御堂義興

神奈川県横浜市出身。1995年二代目玉川福太郎に曲師(浪曲三味線)として入門。2001年より浪曲師としても活動。2006年奈々福で名披露目。さまざまな浪曲イベントをプロデュースする他、自作の新作や長編浪曲も手掛け、他ジャンルとの交流も多岐にわたって行う。(一社)日本浪曲協会理事。平成30年度文化庁文化交流使として、中欧、中央アジア7か国で公演を行った。第11回伊丹十三賞受賞。

# 浪曲師と曲師紹介

福岡県大牟田市出身。曲師(浪曲三味線)。1948年、11歳で佃雪舟に三味線の筋のよさを見込まれ浪曲界入り。山本艶子に師事し、佃雪舟の曲師として全国巡業。17歳で国友忠主催の浪曲教室に参加。以来、国友忠の相三味線となり、主に放送浪曲で活躍。三波春夫、村田英雄、二葉百合子などの曲師も務めた。近年はベテランから若手まで隔てなく曲師を務め、多くの舞台や放送に出演。主に玉川奈々福の三味線をつとめる。

©bozzo



# 玉川太福

たまがわ・だいふく

新潟県新潟市出身。2007年、二代目玉川福太郎に入門して太福を名乗る。同年11月、浅草木馬亭にて初舞台。2013年、浅草木馬亭にて名披露目。2015年第一回渋谷らくご創作大賞、2017年第72回文化庁芸術祭 大衆芸能部門 新人賞受賞。年間50公演を超える独演会を開催し、浪曲定席木馬亭をはじめ、落語の定席にも出演。古典の名作を継承する一方、さまざまな自作新作も手掛ける。

# 玉川奈々福

たまがわ・ななふく



©森幸

二代目玉川福太郎との結婚を機に曲師に。様々な演者と共演、TVやラジオでも活躍。

# 沢村豊子

さわむら・とよこ



©森幸一

さとら・さかえ

# 佐藤貴美江

日本浪曲協会副会長。氷川きよしほか演歌、ポップスのレコーディング共演も多数。

# 玉川みね子

たまがわ・みねこ

太宰治が翌朝にも号泣と短編に書き残した「新佐渡情話」

「弱者の糧」太宰治——映画を好む人には、弱虫が多い。私にしても、心の弱っている時に、ふらと映画館に吸い込まれる。心の猛っている時には、映画をぞ見向きもしない。時間が惜しい。何をしても不安でならぬ時には、映画館へ飛び込むと、少しホッとする。真暗いので、とんたんに助かるかわからない。誰も自分に注意しない。映画館の一隅に坐っている数刻だけは、全く世間と離れている。あんな、いいところは無い。私は、たいていの映画に泣かされる。必ず泣く、といっても過言では無い。愚作だの、傑作だのと、そんな批判の余裕を持った事が無い。観衆と共に、げらげら笑い、観衆と共に泣くのである。五年前、千葉県船橋の映画館で「新佐渡情話」という時代劇を見たが、ひどく泣いた。翌る朝、目がさめて、その映画を思い出したら、嗚咽が出た。黒川弥太郎、酒井米子、花井蘭子などの芝居であった。翌る朝、思い出して、また泣いたというのは、流石に、この映画一つだけである。どうせ、批評家に言わせると、大愚作なのだろうが、私は前後不覚に泣いたのである。あれは、よかった。なんという監督の作品だか、一切わからないけれども、あの作品の監督には、今でもお礼を言いたい気持がある。私は、映画を、ばかにしているのかも知れない。芸術だとは思っていない。おしるこだと思ってる。けれど人も、芸術よりも、おしるこに感謝したい時がある。そんな時は、ずいぶん多い。

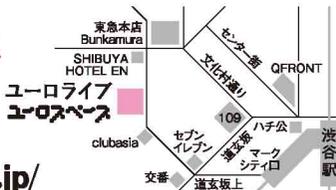
(「もの思う葦」弱者の糧「新潮文庫」)

Fシネマ・ツアー「浪曲でたどる日本映画の再発見」  
主催：Fシネマ・ツアー実行委員会(東京会場主催＝ユーロスペース)  
企画：ユーロスペース+シネマ5  
企画監修：玉川奈々福 協力：山根貞男 映画提供：KADOKAWA、日活、東宝、東映、国際放映、田島空、ヤムラアニメーション

国立映画アーカイブ  
芸術文化振興基金助成事業

# PLACE 会場

ユーロライブ/ユーロスペース  
渋谷駅下車、Bunkamura前交差点左折  
渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F/3F  
問合せ:03-6675-5681/03-3461-0211



<http://www.eurospace.co.jp/>